

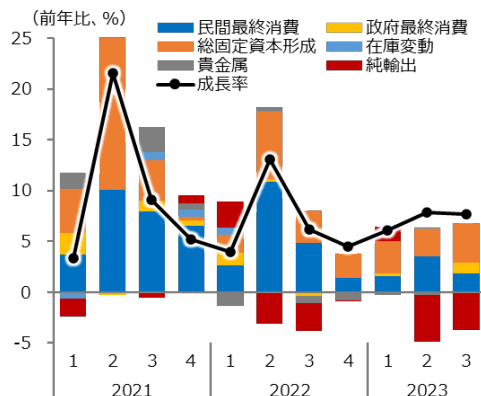
インド

GDP (2023年7-9月期)

堅調な対内直接投資、インフレ圧力緩和から高成長を継続

政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 実質GDP成長率

注：棒グラフ合計と線グラフの差は、統計誤差。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

2 自動車・生産・販売

注：23年10-12月期は、10月実績をもとに算出。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

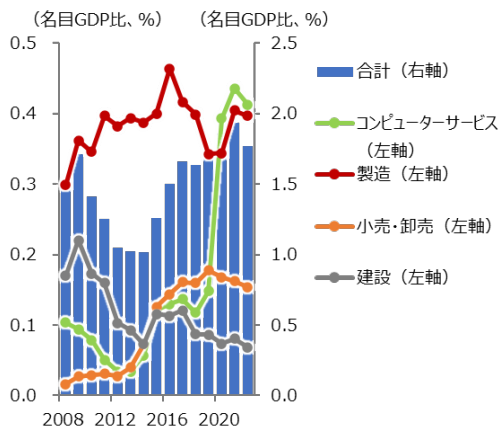
今回の結果

- 23年7-9月期のインド実質GDP成長率は、前年比+7.6%と23年4-6月期の同+7.8%に続き、高い成長率となった。総固定資本形成、民間・政府消費といった内需が成長をけん引し、純輸出の停滞を補完した（図表1）。業種別では、製造業が前年比+13.9%と業種最高の伸び率となったほか、3 四半期連続で全業種がプラス成長を確保した。

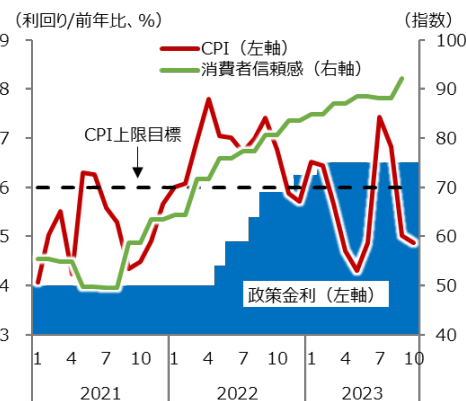
今後の注目点

- 先行きは、インドへの堅調な対内直接投資を追い風に、生産拡大、雇用改善、消費拡大の好循環が成長をけん引すると見込む。対内直接投資の主要受け皿である自動車産業では、生産、販売、輸出が連動して拡大しており、生産・販売はコロナ危機前を上回っている（図表2）。
- 市場拡大への期待、地政学上の重要性といったインドの強みを背景に、インドへの対内直接投資はGDP比2%近い水準が続いている。製造業への安定的な投資だけでなく、コンピューターサービス業への投資急増、小売・卸売業と建設業のウェイト逆転といった業種別投資の動きからは、対内直接投資がインド経済の高度化、消費拡大の一助となっていることがうかがわれる（図表3）。
- また、インフレ圧力緩和が消費回復を後押しすることも見込まれる。熱波などを背景とする食品価格上昇の影響から夏場にかけて上限目標（前年比+6%）を上回っていたCPIは、目標内に収斂（下限目標は2%）、23年2月以降、インド中銀は政策金利を据え置いている。インフレ圧力の目標内への収斂に呼応し、伸び悩んでいた消費者信頼感の改善が進んでいる（図表4）。
- 堅調な対内直接投資、インフレ緩和からインドの23年度（23年4月～24年3月）の実質GDP成長率は、インド中銀想定の前年比+6.5%を上回る算算が大きい。インドはG20議長国として、23年9月開催のG20サミットでの「G20ニューデリー首脳宣言」発出を牽引し、インドの外交面でのプレゼンス拡大を印象づけた。高成長のもと、インドの経済面でのプレゼンス拡大も見込まれる。

3 対内直接投資

注：後方3年平均。直近は22年。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 CPI・政策金利・消費者信頼感

注：直近は、CPI、政策金利は23年10月、消費者信頼感
は23年9月。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成